

令和2年度福島県立美術館運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和3年2月25日(木) 13:30～14:50
- 2 開催場所 県立美術館2階会議室
- 3 委員数 10名
- 4 出席委員数 7名
- 5 議 題

(1) 令和2年度事業の概要について

- ア 令和2年度事業の状況について
- イ 観覧者数等の状況について
- ウ 令和2年度工事施工状況について

(2) 令和3年度事業計画(案)の概要について

(3) その他(福島県立美術館の運営等について)

6 議 事

○福島県立美術館長挨拶

日頃から当館の運営に多大なる御支援、御協力をいただき改めて御礼申し上げます。私は昨年4月に着任しましたが、この1年を振り返ると、コロナ禍による4月、5月の臨時休館、さらには、8月末からは工事休館となり、なかなか美術館本来の活動が難しい1年であったかと思えます。そのような厳しい状況下においても、感染症予防対策を取りながらの企画展の運営、Youtubeによる動画配信など今後につながる新たな取り組みも始めることができ、また、工事休館中県内2カ所で開催した移動展やワークショップなどの館外活動も、大変好評でありました。先日の地震で、施設自体に大きな被害はありませんでしたが、作品の額縁や外周の敷石等の損傷がありましたので、今後、来年度の再開館に向け、その復旧にも当たりつつ開館準備を進めてまいります。なお、本日の運営協議会では、それぞれのお立場からの忌憚のないご意見を頂戴できればと存じます。

○出席委員及び事務局等出席職員を紹介

○会長、副会長の選任

令和3年1月1日付けで委員が改選されたので、福島県立美術館運営協議会条例第4条の規定に基づき、委員の互選により全員一致で会長に大沼博文委員を、副会長に坂本節子委員を選出した。

会長に選出された大沼委員が挨拶の後、議長として議事を進行した。

(1) 令和2年度事業の概要について

令和2年度事業の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【岡部委員】：学校連携事業などいろいろ取り組んでおり、事業の波及効果も出ているのではないかと感じている。展示状況の配信動画も拝見したが、事業へのリアクションや学校の先生のコメントなどは、どのようであったか。

【事務局】：参加した先生や子どもたちからアンケートをとっているが、学校内での授業とは違った効果が得られていることを感じられる。また、先生方からも、考え方が変わった等、ありがたい意見をいただいている。これらの意見については、事業報告書としてとりまとめている。

【笠原委員】：非常に細やかな事業をされていると敬服した。ただ、作品収集について、寄贈がメインとなっている点が気になっている。美術館の一つの大きな機能として、作品収集は根幹をなすものだと思う。収集予算ゼロは致命的なのではないか。展覧会や教育普及、ワークショップは目立つ活動ではあるが、過去から現代、次世代への文化の継承は、美術館の大きな役割であり、その根幹をなすものである。寄贈だけでは、文化として残さなければならないコアな部分の作品を収集できず、また、恣意的なコレクションになってしまう。少しずつでも、年々収集を重ねていくことは非常に重要なことである。

【館長】：美術品取得基金の現金がわずかであることから、10年以上新規購入できていない状況であり、当館としても問題意識は感じている。ご指摘のとおり寄贈だけではコレクションの偏りも生じてしまうので、購入によるコレクションの充実について、県の財政サイドとも調整していきたい。

(2) 令和3年度事業計画（案）の概要について

令和3年度事業計画（案）の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【山口委員】：今年度は会津で移動美術館が開催され、非常に喜んでいる。来年度は移動美術館はやらないのか。子どもたちが親を動かして、会津から福島まで来るのは難しい。移動展を継続し、もっと短いスパンで県内を巡回するようにしてもらいたい。また、漫画やアニメ、ゲームなど、子どもが興味を持つような柔らかいテーマの企画展をどんどんやってもらうことが、美術館に足を運ぶきっかけとなり、間口を広げることにもつながるものと考えている。

【館長】：移動展については、20年間続けてきて、平成30年度で一旦事業終了となった。今年度は休館中ということもあり、県内2カ所で開催することとなったが、多くの方に足を運んでもらい、反響の大きさを感じている。来年度は移動展の実施は予定していない。委員のご意見のとおり、できれば続けていきたいとの思いはあるが、予算の関係もあるので、引き続き開催については検討していきたい。

また、子どもを対象にした展覧会についてであるが、来年度はドラえもんをテーマとした展覧会を予定している。常設展は高校生以下無料となっているので、学校等へ周知を図りながら、常設展、企画展に足を運んでいただけるよう取り組んでいきたい。

【齋藤勝正委員】：笠原委員からもご意見があったが、昨年度の会議でも作品収集についての意見があった。購入凍結ではなく、ぜひ柔軟に検討してもらいたい。また、私は在京美術家協会に入っているが、過去、「福島の画家たち」という展覧会を何度かやっていた。このような展覧会をぜひ継続してもらいたいと協会から要望があったことを伝えておく。

【副館長】：美術館としても、福島県の作家のみなさまの活動は、日頃から関心を持って拝見させていただいている。いろいろな紹介のしかたがあると思うが、取り上げていく機会について検討していきたい。

【舟木委員】：友の会の事務局をやっているが、今年度はコロナの影響でワークショップなど友の会の事業を実施できなかったことが残念であった。今後もしばらくは同様の状況が続くかと思うが、友の会としても、コロナ対策をとりながら、美術館に協力して取り組んでいきたいと考えている。

【大沼委員】私は文化センターの運営に関わっているが、今年はコロナ禍で文化に接する機会が激減していることを感じている。来年度は企画展の内容もバラエティに富んでいるので、美術愛好者だけでなく、子どもたちや多くの県民が美術館に足を運んでいただける機会になればよいと思う。学校連携事業について、非常に面白い取り組みである。作家を呼ぶというパターン以外にも、ぜひ学芸員が講師として学校に出向き、美術の素晴らしさについて伝える機会を増やしてもらいたい。

【副館長】：学校連携事業については、10年以上県内各地に出向いて取り組んできているが、美術館として何ができるのかを考え、今後も子どもたちに美術に触れる機会を提供できるよう取り組んでいきたい。

(3) その他（福島県立美術館の運営等について）

【齋藤勝正委員】：今回実施している工事は劣化した設備についてのものだと思うが、建物の増改築等について伺いたい。予算上、新たな設備投資は難しい現状とは思いますが、収蔵庫は増築の必要はないのか。当初よりかなり狭くなっているのではないかと思うが、いかがか。

【副館長】：収蔵庫に関しては、年々収蔵品が増えるとともにいっぱいになってきており、整理して場所をつくりながら収蔵している状況。いずれ問題になることなので、今後、計画を立て本庁と調整しながら検討していきたい。

【齋藤勝正委員】：収蔵庫に余裕がないと作品の出し入れも大変だと思う。出したときにいつでも出せるような状況になっていないといけない。

【議 長】：すべての議題について承認してよいか、お諮りする。

【委員一同】：異議なし。

【議 長】すべての議題を承認する。本日、委員の皆様からいただいた貴重な意見が、県立美術館の運営に適切に反映されることを期待し、議事を終了する。

【館 長】長時間にわたる御審議、感謝申し上げます。委員の皆様からいただいた意見を、今後の運営に生かしてまいります。

以上をもって、令和2年度福島県立美術館運営協議会を午後2時50分に閉会した。